科学技術高校
生徒による
いきもの記
Vol.90 2023.10.12
２年１組 佐藤 暖哲（はるあき）

磯から都会へお引越し
イソヒヨドリ

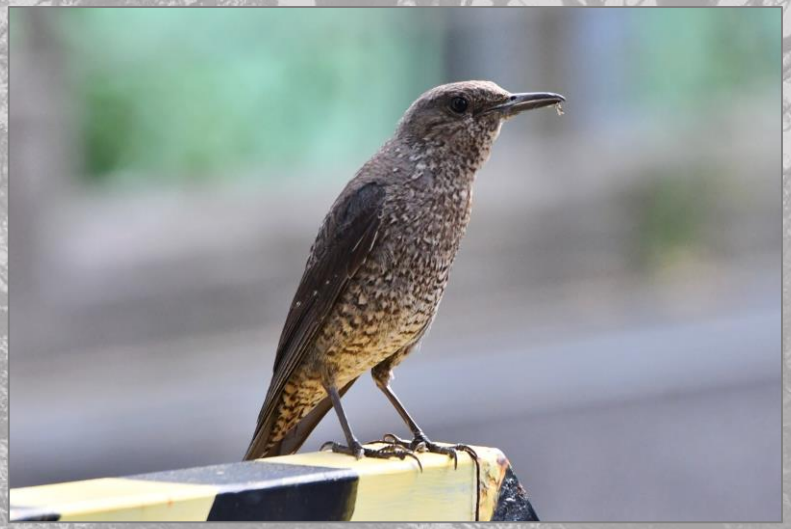
今更ながら7月の話をしよう。ある日、いつものように裏門から登校し、校舎内に入ろうとすると、けたたましい声と共に見慣れない鳥が目の前を横切った。この日はあまり時間がなかったのだが、バードウォッチャーたるもの、やはり好奇心には勝てない。その鳥につい見入ってしまった（この日が期末考査初日だったことはここだけの話…）。観察していると、その鳥が**イソヒヨドリ**だということがわかった。**しかも1羽ではない、3羽もいるではないか！**一体何をしているんだろうと思い見ていると、1羽が飛び立った。が、そのまま壁に衝突（勢いよくぶつかったわけではないので怪我の心配はない）。なんだかぎこちない。すると今度は別の1羽が虫を獲ってきて渡した。ここでようやく気づいた。**このぎこちない子は雛だ！**3羽のうち2羽は雛で、残りの1羽は親鳥だということが分かった。この様子だと、どうやら**学校内で繁殖をしたようだ！**イソヒヨドリの雛を見るのは初めてだったので、それを知ったときはテストなんて忘れるくらい嬉しかった。

イソヒヨドリといえば、名前に“**イソ**”と付くように海岸付近の岩場、いわゆる“**磯**”で見られる鳥だ。ここで、鋭い人はもう気づいているであろう。そう、**本来磯にいるはずの鳥がなぜか学校にいる**のだ？！実はこの鳥、最近都会に進出してきている。イソヒヨドリが都会暮らしを始めた理由はいくつかある。その一つが**生息地の減少**だ。近年、都市開発の影響で東京ではほとんどの海岸で護岸工事が行われ、イソヒヨドリの生息地である磯が急激に減少している。それにより、過ごしにくい海岸から都会のマンション地帯へ移動してきたのだろう。二つ目の理由はイソヒヨドリの**習性**だ。イソヒヨドリは繁殖期になるとよくさえずるのだが、さえずりというのはオスがメスに自分の存在をアピールするもので、いかに遠くへ声を届けるかが重要である。だから、高所で声のよく通るマンションなどの屋上は、イソヒヨドリが**さえずるには絶好のポジション**なのだ。また、学校には餌となる虫も十分に生息しているため、**イソヒヨドリにとっては案外適した環境なのかもしれない。**

イソヒヨドリ以外にも都会進出をした鳥は多くいる。近所の公園などでよく見る鳥も、もしかしたら元々都会にはいなかったかもしれない。そんなことを調べてみるのも面白いので、ぜひ色々と調べてみてほしい。

（文・写真：佐藤暖哲）

イソヒヨドリのオス。オスは青と赤の鮮やかな体色をしている。オスは子育ては行わないようで、この時は見られなかった。
（※千葉県で撮影）



イソヒヨドリ *Monticola solitarius*　スズメ目ヒタキ科イソヒヨドリ属
体育館横の通路にいたイソヒヨドリのメス。近くに雛がいたため親鳥なのだろう。イソヒヨドリは名前に“ヒヨドリ”と付くが、実際はヒヨドリの仲間ではない。メスの見た目がヒヨドリに似ていることからこの名が付けられた。
東京都ランク：準絶滅危惧（NT）

イソヒヨドリの雛たち。学校では2羽が巣立ったようで、親鳥から交互に餌をもらっていた。

オナガに襲われた雛。この時はかろうじで逃れたが、都会にはカラスのような天敵が多く潜んでいる。

実習棟の通気口に作られたイソヒヨドリのものと思われる巣。親切なクラスメイトが教えてくれた。